

令和元年度第2回 広島城のあり方に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城のあり方に関する懇談会

2 開催日時

令和2年1月27日（月）10:00～12:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

三浦正幸委員（座長）、大庭由子委員、本田美和子委員、辻孝和委員、平野公穂委員、辻本建委員（飯田稔督委員代理）、上田宗岡委員、金城一國齋委員、角倉博志委員

(2) オブザーバー

広島城館長、広島市緑政課長

(3) 事務局

広島市市民局 市民局長、文化スポーツ部長、文化のまちづくり担当課長ほか

5 議事（公開）

(1) 広島城基本構想（素案）について

(2) 懇談会の進め方について

6 傍聴人の人数

1人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城基本構想（素案）【資料1】
- ・広島城のあり方に関するニーズ・サウンディング調査結果【資料2】
- ・広島城天守閣耐震診断調査結果（中間報告）【資料3】
- ・懇談会の進め方【資料4】
- ・サッカースタジアムの建設に向けた取組【参考資料1】
- ・中央公園の今後の活用に向けた取組【参考資料2】
- ・第1回広島城のあり方に関する懇談会 議事要旨【参考資料3】

8 議事要旨

(1) 広島城基本構想（素案）について 及び (2) 懇談会の進め方について

(三浦座長)

- ・議事(1)の「広島城基本構想(素案)について」と議事(2)「懇談会の進め方について」は、あわせて事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ー 事務局から資料を説明ー

(三浦座長)

- ・天守閣の耐震診断では、RC造部分のIs値が速報値で0.3未満とあり、地震の振動衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が高い。建物内に観覧者がいるときに大地震があれば死傷者が出るので、耐震改修が絶対に必要となる基準である。
- ・耐震基準が改正される前に建てられた全国のRC造天守閣は、基本的に現在の耐震基準に合っておらず、耐震診断をすれば大体0.3前後である。広島城が特に低いというわけではなく、日本全国のRC造天守閣は全部が危険である。
- ・熊本の大地震で熊本城天守閣が打撃を受けたが、Is値は0.3ぐらいだった。したがって熊本地震級の地震があるとあの程度は壊れる。幸いに観覧時間外だったので死傷者は出なかったが、開館時であれば、建物内でかなりの死傷者が出たことは想定できる。
- ・基本構想の素案で、2ページの1番最後の行に、「保存活用計画の策定に向けた議論を行うことも考えられる」とあるが、文化庁が全国の史跡に関して策定を求めており、昨年度と今年度にかけて、全国の史跡、特に城跡で保存活用計画を片端から策定している。天守閣の耐震改修は別に計画が策定されていなくても構わないが、それ以外の史跡内の現状変更を伴う工事等をするためには、保存活用計画は絶対に必要になる。本来は保存活用計画を先に策定し、懇談会を開催すべきだったが、時間的制約でやむを得ずこうなっているだけであり、必ず策定しないといけない。
- ・15ページの(2)③展示空間、広島城の目玉となる収蔵品についての説明で、鯨瓦とあったが、鯨瓦が完全な形で残っているということで限定すれば、広島城の鯨瓦は日本で現存最古の鯨瓦である。また形が非常に古く、豊臣大阪城の、もしくはもう少し古く安土城の鯨瓦を知る上で、日本一重要な鯨瓦なので、目玉中の目玉である。大変重要なものがあるということでこの計画は非常に重要になると思う。

(角倉委員)

- ・周辺施設との連携という点について、広島城の今後の運営に協力できる分野及び要望事項について述べる。
- ・ピースツーリズムの観点からの活用として、ひろしま美術館の設立趣旨は、原爆被災からの復興、鎮魂、文化復興がメインテーマであり、館内の表示と対外的な発信を通じて、平和記念資料館・平和記念公園～ひろしま美術館～広島城へ、平和あるいは復興の観点から、被災から復興へのストーリー、通路としてのストーリーを作っていくことに是非協力させていただきたい。
- ・観光客、インバウンド誘客の観点として、当館の敷地はもともと上田家の上屋敷があった場所で、広島城とは非常に縁深い地であることから、今後、美術館として所有している日本画、日本洋画、日本の工芸品等について、展示の拡充や企画展の開催、また可能であれば、施設の拡充を行い、広島城と連携して、インバウンド客などの観光客の来訪を増やすために協力したいと思う。

- ・中央公園内の文化エリアにおける回遊性向上の観点から、広島城二の丸方面からひろしま美術館の東側を通って、紙屋町へのルート整備について、地下道的美装化が考えられているが、地下よりも、明るい地上を通ることが圧倒的に効果的だと思う。
- ・今後はサッカースタジアムができ、J 1 の試合や音楽イベント、文化イベントも開催されると思うが、人の流れをこの文化ルートへ誘導して確保するためには、陸上でのルートが必要だと思う。例えば、陸橋式にすれば、陸橋からの眺めは非常に素晴らしいと思うし、さらに陸橋に文化的な意匠を施せば、広島城の付加価値も高まっていくと思う。費用や、交通規制といった問題もあると思うが、是非とも検討してもらいたいと思う。

(辻委員)

- ・今お城は、福山城にエレベーターを設置するとか、松江城も大手門をVRで再現するなど、いろいろと話題になっているので、広島城も特に力を入れて、皆さんから愛されるようなお城にしていきたいと思う。
- ・ニーズ調査等で、市民や小学生では、全体の3分の1は広島城に来たことがないがあった。素案12ページにある主なターゲットは、観光客だけでなく、市民を加えたものとしてほしい。また、観光客の予備知識が少ないと何度も書かれているのは気になる。
- ・外国人観光客が増えた分、広島城への観光客も増えているが、市民の来訪は伸びていないため、市民に来てもらえる、楽しめるお城にしないといけない。
- ・インバウンドが伸びているので、天守閣中の表示の仕方を外国人が分かるように簡単にしないといけないし、市民のためにもバリアフリーのことを考えないといけない。
- ・三の丸のイメージ図からは、そこまで大きな施設は建てないように見えるため、それならば、二の丸に、時代劇に出てくるような茶店や、歩く人のためにベンチがあるとよいと思う。
- ・サッカースタジアム整備においても、いろいろなレストランを出店させようとしているので、同じようなものは避けて、機能分化して、江戸風景のようなものが醸し出せばよいと思う。
- ・広島城の周りをジョギングで1周しようとしても、翔洋テニスコートの近くは道幅が狭く、RCCの駐車場周辺も危険なため、安全に回ることができない。道幅を拡幅するときは、安全性を確保するとともに、桜が咲いているような雰囲気の良い景観ができるとよい。
- ・三の丸であまり大きな施設を建てないのであれば、お城の城域全体でおもてなしの場所を作ればよいと思う。水の都ひろしま推進協議会では、小さいお店でも出店しやすいような仕組みにしており、そういう方式で進めるのもよいと思う。

(三浦座長)

- ・広島城の内堀の東側のところも対応に加えていただければよいと思う。
- ・市民から愛される城は非常に重要である。福山市民は福山城にほとんど愛着はなかったが、去年あたりから、築城400年で非常に盛り上がり、急速に市民から愛される城に変わってきている。
- ・広島城は日本10大名城なので、広島城はこのような城だったという価値や見どころを、広報紙を使うなどして、市民にもっと広報する必要があるかもしれない。

(大庭委員)

- ・広島市民・県民のアイデンティティとしての広島城がどう存在するかを考えると、例えば、新幹線で広島駅に戻ってきたときに、広島城が姫路城のように大きく見えてほしい。広島城は夜に平和大通りを歩いていても全然見えない。リーガロイヤルホテルのように高い建物で見えないことはもちろんあるが、どこからか、ちょっと体を動かしたら見えるということが必要ではないかと思う。
- ・私は姫路市民ではないが、子供のときから、姫路駅を通る際にお城が見えるのがこよなく好きで、行ってみたくなくて、実際に何回も行った。
- ・アメリカ人の友人が、東京からアメリカ人の友人を広島に原爆ドームを見るために連れてきたときに、たまたま広島城が見えたから行ったと言っていた。お城に魅力を感じる人は、アンケートからもはっきりしたように、予備知識がなくても見えると行く。
- ・鎌倉は門前町としてとても栄えていて若い人が非常に多いが、彼らは鶴岡八幡宮を誰がつくったかは知らない。文化をないがしろにするわけではないが、行ってみることで、若い人は「へー」と思い始める。
- ・まずは行ってみるというエリアを作り、広島市民・県民もどんどん行くことで、広島城が広島全体のアイデンティティとして本当に光を放つようになると思う。
- ・例えば、天守閣では特設コーナー、二の丸復元建物では常設コーナー、三の丸では外観は全部城下町のように見えるが中はおしゃれなレストラン、駐車場は城下町の雰囲気など、とにかく城下町といえるような雰囲気を全体で醸し出すようにすると、行ってみたい、となる。
- ・東京駅から少し行くとお堀、皇居が見える。そこから、周りでも散歩してみようかなとなる。どんな街中でも、お城が見えるということは大事だと思う。
- ・コンソーシアムや委員会の最も大きな問題は、権限とお金が集中しないということだが、例えば、広島市役所の中で、一大権限と資金を持つプロジェクトの組織を立ち上げて、いろいろな関係者との調整や指揮を執るということになれば、非常に動きやすいと思う。
- ・大きなベクトルで広島城をどうしたいか、平和のシンボルとしての広島城がどうして造られたか、江戸時代の文化は平和文化で、その象徴として十分役割を果たしてくれるわけだから、そういう一つのコンセプトで動くということをお願いしたい。

(三浦座長)

- ・多くの市民は城から戦をイメージしているかもしれないが、広島城ができた豊臣政権が安定化したところから戦はほとんどなくなった。本来、城は戦を抑止するための象徴的効果のほうが大きく、特に江戸時代になってからはそのイメージが強くなった。そういった城のイメージ自体も正しく伝える必要があるかと思う。
- ・お城はどこからでも見えるべきだが、広島城の特性は平城である。本当の意味での平城は日本全国を探しても広島城、赤穂城などほんのわずかしかない。広島城は平城の代表の一つと慎重しく書いてあったが、是非とも広島城は平城の代表、日本一の平城であることをしっかり書いていただきたい。
- ・平城は、当時、戦闘的・軍事的価値は非常に低く見られていて、広島城ができた豊臣秀吉政権の頃、まだ軍事が重要だったときに、このような平和的な城を造ったことは、日本の歴史から考えて驚異的なことだった。是非ともそれを強調していただきたい。
- ・ただ、平城であるため、どこからでも見えるというのは難しく、素案の13ページ(3)で植

栽をはじめとする公園環境の改善とあるが、少なくとも広島城に近づいたら天守閣が見えないと、行こうという気分にならない。

- ・特にここ数年間の動きでは、全国の城は木が生い茂って天守閣等が見えなくなってしまった。これは、昭和30年以降に樹木を放置し、この50年間で原生林になった城がほとんどであり、昭和30年より古い写真を見ると、木はそんなに生えておらず、天守閣はよく見えていた。広島城でも天守閣を再建したときにはよく見えていた。
- ・例えば、世界遺産で国宝の姫路城、福山城、岡山県の津山城や愛媛県の松山城では、景観の障害となる樹木を大々的に伐採したところ、非常によく見えるようになった。伐採当時は、自然保護派の市民からクレームがあったが、伐採が終了したときには、市民から非常に称賛され、よく見える、すばらしい城になった。日本の城で、本来の江戸時代の姿を復元するには、植栽管理、外からよく見えるように木を切るだけでよい。また、樹木が地中で伸びて石垣を壊すようなものもあるので、早く切ったほうがいい。
- ・他の城の例も参考にして、広島城が遠くからでもよく見えるようにしていただきたい。

(平野委員)

- ・広島城をどう魅力的にしていけるのか、魅力的になった広島城をどう市民や観光客に知ってもらえるのか、そして、どう足を運んでもらえるのかについて、考えさせてもらった。
- ・平和記念公園や紙屋町、繁華街から広島城までのアクセスは、観光客からは大変分りにくく、市民にもイメージがあまりよくないと思う。特に観光客の動線を考えた場合は、外国人利用者の多いめいぷる一歩が三の丸に立ち寄るようにバス停を置いて、広島城の玄関口にしてほしい。大阪城のように、ＪＲの駅を降りたら、すぐに商業施設とか飲食施設が並んでいるという形になると、三の丸のにぎわい創出につながっていくと思う。
- ・広島城内外の回遊性については、最新技術の活用という部分をもっと取り入れていただければと思う。広島城に多言語が話せる観光ガイドを常設するというのは、理想的ではあるが、やはり現実的ではないと思う。携帯電話は外国人観光客、国内観光客や市民も使っているので、多言語に対応したスマホの観光アプリを導入する方法もあると思う。スマホアプリ、最近の観光アプリであれば、携帯電話は音が出るので、読まなくても、聞きながら美術館にある音声ガイドのような使い方もできるし、見ながら地図としての活用もできる。
- ・最新技術という部分では、先日、下関市が令和元年度事業として実施した下関歴史ＶＲ探索マップというＶＲを体験した。これは主に観光客や訪日外国人向けに歴史的コンテンツをＶＲで提供し、市内周遊消費強化を狙ったものだが、最近のＶＲは非常にレベルが高く驚いた。この下関市の事例は、観光庁が進めている最先端観光コンテンツインキュベーター事業に採択されたものだが、国の事業などをうまく使うのも、他の城との差別化や話題性、回遊性を考えたとき、有効であると思う。
- ・城内外の回遊性を考えた場合に、観光客だと、観光案内所や近隣の観光施設、ホテルなどで観光アプリをダウンロードしてもらおうとか、また平和記念公園から広島城へ行く人が非常に多いので、７月にリニューアルするレストハウスなどで実証実験的にでも広島城のＰＲを行って観光客を誘導するやり方などもあると思う。

(三浦座長)

- ・広島城は天下の名城だが、行く道が分りにくく、日本で一番行きにくい城になってい

る。広島城に近づいて目の前まで来ても、地下道のせいでどこから行っていいか分からない。

- ・VRは最近技術が非常によく、いろいろなところで作っている。国の事業で補助金が出ており、特に城の分野で大変流行っている。下関のものはよくできているが、お城では、私が監修した福山城のものがよくできているので、是非とも参考にしていただきたいと思う。

(本田委員)

- ・以前、彦根城に行ったときに、イベントを大々的にされていて、お堀に船が運行していた。今は広島城でもやっているが、当時は広島城ではやっていなくて、どこが運営されているのか聞いたら、彦根市が彦根城を中心としたイベントを展開しているとのことだった。一般市民で、それまでお城に興味がなかった若手の男性が、是非自分も何かやってみたいと思い、お城のお堀に船を浮かべるという案を出して、それを汲み上げる形で実現した企画だったそうである。
- ・おそらく今は、企業が実施するというのがメインになっているが、それだけではなく、一般の個人がしてみたいことを、汲み上げて実施する仕組みにすると、より一般の人に親しみやすさが増していくと思う。
- ・今、私は別の団体で、いろいろイベントの手伝いをしているが、若手のイベントーが集まっている中で、こうすれば面白いと言うと、あっという間に実現していく。企業でなくても一般の個人に優秀な人はたくさんいるので、そういう人たちが参加しやすいような仕組みにすると、広島城では何か面白いことができるという感じで、盛り上がっていくと思う。
- ・郷土資料館で広島歴史探検隊という組織があり、広島城でボランティアガイド活動をしている人がいるが、とにかく広島城のことを語りたい人は結構いる。そういった活力を吸い上げる形にすれば、より親しみやすい城ということが実現していくと思う。
- ・素朴な疑問として、天守閣の耐震工事が終われば、おそらく今の展示の形を踏襲して館内で展示すると思うが、もし、木造再建を実施するときは抜本的に展示の形が変わっていくと思う。そのあたりはどうなるのだろうか。

(三浦座長)

- ・木造再建した場合は、天守閣の中に展示物はほとんど展示できない。理由は、木造再建した建物ではそれ自体が見世物、展示物になるからで、他のところで天守閣が再建されたときも、大体そういう傾向にある。
- ・私もいろんな城でボランティアガイドの養成講座をしているが、定期的に養成講座を実施したほうがよい。本来広島城が持っている価値を案外分かってない人が多く、価値を分かっていたら、その人たちが熱心に観光客もしくは市民の方に語っていただくことによって、広島城の本当の価値をよく分かってもらえるようになると思う。

(辻本委員代理)

- ・調査の中で、天守閣に期待されるものは、城の説明が中心だというような、城に期待している外国人のニーズが高いという説明があったが、素案における展示内容については、天守閣では歴史を中心とした展示とし、二の丸復元建物では城の展示をするという説明だったかと思う。このあたりについては、是非、広島城の平城としての魅力などについて

ては天守閣で展示した方が、来場者のニーズに合っていると感じたので、いろいろ事情があるのかもしれないが、このあたりも是非検討してほしいと感じた。

- ・管理運営についても課題であるという素案だったと思うが、例えば、現状では天守閣だけが有料施設で、本丸・二の丸については無料で入れるが、本丸・二の丸に入る時点で料金徴収することも一つのやり方ではないのかと感じた。
- ・その際、もちろん二の丸も有料に値するようなものでないといけなとか、管理運営していくに当たって、費用面の課題等もあると思うが、一つの方策という感じがする。全体で指定管理ができる体制が大前提であると思うが、そういった方策も検討されてはどうかと感じた。

(三浦座長)

- ・二の丸復元建物は無料で入場できるため観光客が行かない。別に値段を上げるべきだというわけではないが、天守閣でチケットを買ったときに、同じ値段のままで二の丸復元建物の拝観券を天守閣の拝観券につけておけば、二の丸復元建物にも絶対行くと思う。そういう工夫をするとよいと思う。

(金城委員)

- ・広島城に現在所蔵・収蔵されている資料等のリストを是非懇談会に提示していただきたい。建物が非常に議論になっているが、その中に実際に、どういうものが収蔵されているのか、毛利家あるいは浅野家ゆかりのどういったものがあるのか。先ほどの日本一の鯨瓦があるということも市民は知らない。
- ・前回の懇談会で、広島城の現状では展示施設が非常に少なく、耐震補強か建て替えをする場合、展示施設はどうなるのか、また、収蔵庫が、非常に劣悪な、本当にこんなところに押し込めていいのかと思うような環境であったと思うが、今後、展示施設がどのくらいスペースを確保できるのか、そしてそれにどういうふうランディングしていくのか。後世に残すためには、建物だけでなく収蔵庫についてもしっかりと考えて、いろいろな文化財的なものをどう継承保存していくのかも非常に大切だと思うので、そのあたりの資料を是非皆さんと共有しておいたほうがいいと思う。

(三浦座長)

- ・広島城の資料は、広島城の天守閣だけではなくて、郷土資料館にもあり、そういった市が管理して保管している広島城関連で展示ができそうなものを、一度リストにするといいかもかもしれない。

(上田委員)

- ・広島城に行く前後に、意外と縮景園に行く人がいるのだとアンケートを見て思った。
- ・縮景園は今年築庭400年だが、3年前から県の文化芸術課が中心になって、縮景園の今後の展開を考えており、京橋川の方にある被爆64柱の碑が劣悪な状況だったが、去年から今年にかけて、京橋川の最も400年前のイメージが残っているところを、川と一体にして、慰霊碑を非常にいい形で整備した。被爆が歴史の中に取り込まれているような、非常にゆったりした良いゾーンとなり、人がたくさん行くような大きな魅力になると思っている。
- ・饒津神社については、この3年ぐらい、私が責任者として、どうすれば良いものが作れるのかと思いながら進めてきた。饒津神社は広島県指定第1号公園であることが一番大

事なことだと思い、3年がかりで、川が見えるような形にして進めていった。拝殿から本殿の奥まで50メートルくらい遊歩道も造っていただいて、被爆後残った石が良い腰掛けになっていて、50人くらい座れるようになっていて。今本当に良い雰囲気になり、今後おそらく広島市民・県民や観光客の人たちに随分役立つことになると思っている。

- ・広島城については、天守閣が見えないという意見が出ているが、広島城に入ったときに、市民や観光客がここから見える景色はいいねと感じるように、休憩所のこともそうだが、中から見た景色をどういう状況にするべきかという視点が必要である。
- ・広島城の歴史的な大本営跡などの史跡について、いずれ歴史の中に取り込まれていくわけだが、それを前提として、庭園としてどのように組み立てていくかを考える場合、市役所の担当部署や庭師だけでは無理で、庭の設計家、丹下健三さんのような作庭家がいないとできないと思う。
- ・縮景園でも饒津神社でもそういう方に対応をお願いした。私どもは広島城内上田家上屋敷の構成再現を30年かけて行ってきたが、実はそういう方々と打ち合わせをしながら、最終的には図面を引いた後、現場の人たちをお願いしてきた。そういう日本有数の人達等に入っていていただくことを、市でも考えていただく必要がある。
- ・二の丸復元建物については、歴史文化を学ぶということはもちろん大事だが、全体の空調設備を整備するのは無理だとしても、展示ケースがある程度設置されていないと、学ぶだけでは説得力がない。その部分について、今のようなスタンスだけを書いているが、それは違うと思う。
- ・三の丸については、極めて限られた施設になると思われ、そこに鯢瓦や甲冑を置くということだが、今、国を挙げて歴史文化的な資料を観光に活用しようと言われており、片方では、歴史的な資料等の使い方がこれでいいのかという議論が京都などでもかなり出てきている。三の丸に、日本に誇るような鯢瓦を安心して展示し、皆さんに喜んでいただけるような展示施設・設備をこの状況の中で整備できるのかと危惧した。歴史的な資料等を見せる方向に皆が進んでいくことはもちろん良いことだが、保存との兼ね合いで、そこまでのものができるほどの設備がある歴史文化施設ができるだろうと思う。

(三浦座長)

- ・縮景園、饒津神社はいずれも広島城と極めて関係が深い。城外の関係のあるものとの連携も素案に書いてあるので、是非ともしっかりと入れていただきたい。それから、公園の設計には専門家を入れなければいけない。そのためには保存活用計画を策定しない限り不可能なことなので、是非とも早く保存活用計画を策定していただきたいと思う。

(事務局)

- ・今後、本日の意見と市民意見などを踏まえながら、基本構想策定に向けた作業を進めていく。次回の懇談会については、令和2年の4月下旬頃の開催を予定しているが、必要に応じて、委員の皆様にご相談をさせていただくこともあると思うので、引き続き、御指導・御協力のほどよろしく願います。本日はありがとうございました。